



## エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

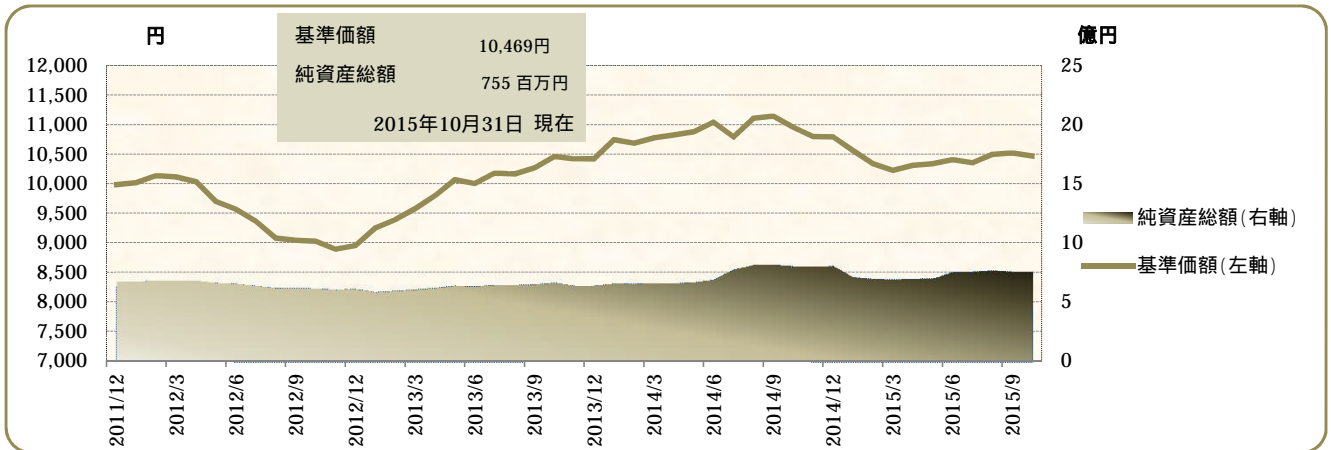
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2015年10月31日

## 基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

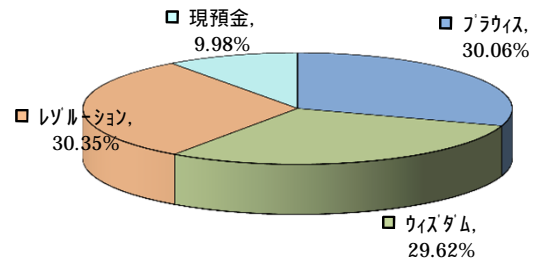
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%			-3.00%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%



## 運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2015年10月31日	
基準価額:	10,469円	対前月比 -52円
純資産総額:	755百万円	対前月比 -0.8百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	1.10%
基準価額騰落率	6ヶ月	1.56%
設定来	ファンド	4.69%
基準価額騰落率	TOPIX	115.35%
	日経平均	127.13%

## 投資対象ファンドへの資産配分 (2015年10月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

## 投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%			1.48%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%			0.67%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%			0.07%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%

上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。



## エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

## 相場動向

10月の株式相場は、日経平均で9.75%上昇の19,083.10円、TOPIXで10.42%上昇の1,558.20ptとなりました。中国や新興国など海外の景気に対する過度な懸念の後退や中国や欧州などの各国の金融緩和政策への期待により大幅に上昇し、9月の大幅下落を埋める展開となりました。

上旬は、中国景気への悲観論がやや後退したことや原油価格が上昇したことにより、景気敏感株や資源関連株などを中心に買い戻しが優勢となりました。

中旬は、方向感のない動きとなりました。原油価格が再び低下したことや円高を背景にやや下落したものの、下値では買いが入りもあいたりました。

下旬は、各国の金融政策が相場を大きく動かしました。まず22日にECBが12月に追加緩和を実施する可能性を示唆したことや、23日に中国人民銀行が追加金融緩和を実施したことで上昇して始まりました。一方で、28日のFOMCでは12月に利上げを判断すると明記されたものの日本株への影響は限定的でした。30日の日銀金融政策決定会合では一部で期待されていた追加緩和が見送られたため一旦は下落したものの、補正予算への期待などから上昇に

転じる動きとなり、月間では大きく上昇して取引を終えました。需給面では、海外投資家が10月第3週までの3週間で5か月ぶりの買い越しとなりました。一方で、個人投資家が5か月ぶりの売り越しとなりました。

セクター別騰落率では、パルプ・紙、鉄鋼、精密機器、その他金融が上位となり、小売、繊維製品、その他製品、建設が下位となりました。9月に大きく下げた素材産業を中心に買われ、ディフェンシブと言われている業種が相対的に弱い展開となりました。

ファクター面では、前半は非常に強いリターンリバーサルかつバリュウ相場となりましたが、後半はモメンタム相場となりました。

## 組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

## 【ブラウイス】

## &lt;ファンド運用状況&gt;

10月の運用成績はJPYクラスで+0.83%となりました。過度な悲観の修正から株式市場が戻り歩調を強める過程で、銘柄間の割高・割安の修正が進んだことがプラスの要因となりました。

セクター別の損益では、化学、電機、陸運、食品、情報通信セクターでプラスとなり、紙パルプ、金属、小売りセクターでマイナスとなりました。

## &lt;今後の市況見通し及び投資戦略&gt;

11月の株式市場は上値の重い相場展開を想定します。中国経済に対する警戒感が弱まり、10月の株式市場は大幅に上昇しましたが、国内および中国景気に対する不透明感から、今後の企業業績に対する懸念は依然として強く上値では利益確定売りに押される展開になると考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

## 【ウィズダム】

## &lt;ファンド運用状況&gt;

10月の運用成績はJPY-Fクラスで0.00%でした。株式市場が大幅上昇となる中、月上旬は業績不振な割高株の買戻し等によりファンド収益は悪化しましたが、下旬から決算発表が始まると業績見合いの株価形成となり、業績好調な割安株が市場をアウトパフォームしたことでパフォーマンスは改善傾向となりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションで日立(6501)、ズケン(9987)、ショートポジションではミニストップ(9946)、神戸物産(3038)がプラス収益に寄与しました。

## &lt;今後の市況見通し及び投資戦略&gt;

今月の株式市場は横ばいを予想します。ECBが追加の量的緩和を示唆したことや中国が追加の金融緩和を実施したことで市場は落ち着きを取り戻しましたが、国内企業の企業業績は製造業を中心にモメンタムが低下傾向にあり、もみあいの相場展開を予想します。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定した収益を目指します。

## 【レゾリューション】

## &lt;ファンド運用状況&gt;

10月の株式市場は、大型株中心に大きくリバウンドする中で、小型株が一貫して出遅れた状況となりました。また、業績の継続性一辺倒から、株価水準に着目したリバウンドも見られ、一部外需シクリカルの反転が大きくなりました。ポートフォリオは、引き続き、化学、建設などのセクター（個別銘柄の判断から結果的に電機をオーバーウェイト）、特に情報サービスを大きくオーバーウェイトしています。定性評価される銘柄の高ウエイトをやや圧縮し、一部リバウンド狙いの組入を行いました。また、外需シクリカルの（ネット）ショートから、ややディフェンシブ

ショートの方向としました。業績好調な中村超硬(6166)や山一電機(6941)などのほか、個別要因により好調なエレクトロニクス関連のロングがプラスに寄与しました。一方、景気敏感銘柄のショートがマイナス寄与しました。反転に備えて個別株ショートを圧縮（TOPIX先物に代替）していましたが、ショート銘柄のリバウンドが足を引っ張りました。全体として、TOPIX先物のショートを上回るロング銘柄の収益積み上げに至らず、パフォーマンスの獲得となりませんでした。

## &lt;今後の市況見通し及び投資戦略&gt;

中小型株全体として売買が低調であり、低成長高バリュエーション銘柄の存在などに大きな変化はありませんが、足元の上期決算を受けて、ファンダメンタルによる選別が見られます。

ポートフォリオは、内需成長株の高ウエイトを維持しつつも、利喰い優先とします。また、先月に続き、TOPIX先物を縮小させ、新規個別株ショートの積み上げを進めます。基本的なセンチメント（割安放置）は変わらないと思われませんが、短期好決算銘柄を売却し、来期回復銘柄へのシフトを進めます。

業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大可能な割安銘柄の組入を行います。成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

## 投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメンツ・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 <a href="http://hedgefund-sec.com/">http://hedgefund-sec.com/</a> 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

## 商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

## 当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

## ご留意事項

当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。

当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。

当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。

運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。**

**投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**